

令和5年度 第1学期終業式 式辞 【生徒の皆さんへ贈る言葉】

本日をもって令和5年度の1学期が終了します。皆さん大変お疲れ様でした。先ほど各学年の代表の生徒からの1学期の振り返りがありましたが、みなさんそれぞれにとってとても充実した1学期であったことがよく伝わってきました。



1年生にとっては入学式から生活環境が変わり、学校に慣れることが大変な1学期だったと思います。授業や部活動にも慣れ、川越の校外学習を経験し、日に日に中学生らしくなって行く様子が見られ、嬉しく感じています。大豆栽培への取組も指導者の方から「1年生たちが積極的に取り組んでいて素晴らしい」と何度もお褒めの言葉いただいています。初めての中学校の夏休みとなりますが、夏休みの学習や部活動など、それぞれの目標をもって充実した夏休みにすることが1年生にとっての「挑戦」となります。

2年生は、今年から後輩ができ、先輩としての立ち振る舞いができるようになってきましたね。神楽の取組や職場体験などを通して、たくさんの方々へ接する皆さんの姿に成長を感じています。地域の方々からも多くのお褒めの言葉をいただいています。社会や地域貢献することの大変さそして楽しさを身をもって感じたことでしょう。また、部活動の中堅から、中心として立派に活動している姿にも安心を感じています。夏休み中の部活動でもリーダーシップを発揮し、次の目標に向かって一生懸命取り組むことが2年生にとっての「挑戦」といえるでしょう。

3年生にとっては、修学旅行をとおして、さらに良い雰囲気となり、学年集団として一段と絆を深めたと感じています。先日のアメリカからの訪問団との交流もとても素晴らしかったです。積極的に初めての方とコミュニケーションを取ることは簡単なことではありませんが、皆さんは気さくに、接してくれました。彼らは帰り際に、本校の生徒たちを「great students」と呼んでいました。これも地域や社会貢献の方法の一つです。中学生が笑顔であいさつしたり話したりすることでも、地域の人たちにとってはとても嬉しいことなのです。

また、運動部にとって、最後の大会が悔いのないものになったのではないかと信じています。挑戦の続く、県大会出場者、吹奏楽部のみなさん、本番までの時間を大切に過ごしてください。皆さんにとって部活動から学んだことは中学生のこの時期にしか得られない貴重な経験ばかりです。その経験を自信にし、次のステージ、つまり自分自身の進路と向き合っていってほしいと思います。夏休みには多くの高校が説明会や体験などを行います。自分の目で見て、感じる事が進路選択の最初の一步です。3年生にとっての「挑戦」はギャチャンジができるかどうかにかかっています。少し先の未来を考え、今やるべきことをする、そのような「挑戦」の夏休みにしてほしいと思います。

全体として2つの点で1学期を振り返ります。1つは、挨拶についてです。朝の挨拶はさらに磨きがかかりとても素晴らしい状態が続いています。一方、校舎内でのあいさつは、自分から先に相手にあいさつできましたか。校舎内での「こんにちは」は「元気です」のサイン、来校者へは「ようこそ」の気持ちの表れということを朝会で話をしました。今後も挑戦を続け、挨拶の聲が飛び交う学校を皆で作っていきましょう。

2つ目、TPO、つまり時間、場所、状況に応じた立ち振る舞いについてです。この1学期、TPOに応じた返事や反応は授業や集会、その他の場面でできたでしょうか。そのような場面は必ず毎日あります。このことについても、今後も挑戦を続けていきましょう。

このような挑戦は、言い換えれば「自分を磨く」と表現できます。磨けば光るのが人間です。そして磨くのは自分自身でなくてはなりません。

明日からの36日間の夏休みで、毎日少しずつでも自分磨きができれば、2学期は1学期よりも成長した自分でスタートが切ることができると思います。それにはこの夏休み中に様々なことへの挑戦、継続、経験を積むことです。

最後になりますが、みなさんにとって健康で充実感・達成感のもてる夏休みになることを願っています。そして元気に2学期を迎えられることを願い、1学期の終業式の式辞とします。

吉田中学校長 矢口岳人